

仙台市文化財調査報告書第 449 集

仙台平野の遺跡群26

平成 27 年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

南小泉遺跡第 77 次・78 次、大野田古墳群第 23 次

2016 年 3 月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。
仙台市内には現在約 780 箇所の遺跡が確認されております。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災より 5 年が経ちますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届の件数や発掘調査の件数は、平成 23 年度以降、震災前を上回る状況が続いております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護に日々務めているところです。

本報告書には、個人住宅建築に伴って平成 26・27 年度に発掘調査を実施した、南小泉遺跡第 77 次・78 次調査、大野田古墳群第 23 次の調査結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を伝えるために将来へ守るべき大切な財産です。先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な役割であると思います。地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長 大越 裕 光

例 言

1. 本書は、平成 27 年度国庫補助事業による個人住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書であり、南小泉遺跡第 77・78 次、大野田古墳群第 23 次の各発掘調査報告を合本にしたものである。
本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。
2. 本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は平間亮輔が行った。
第 1 章－平間亮輔 第 2・3・4・5 章－鈴木 隆
遺物の基礎整理～実測図作成－佐藤 洋、向田整理室作業員
遺物図・遺構図デジタルトレース－向田整理室作業員
遺物観察表作成－佐藤 洋 遺構註記表作成－各担当職員
遺物写真撮影・図版作成－小林 航、鈴木 隆 遺構写真図版作成－鈴木 隆
3. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 文中および図中の方位は概ね北を示している。
2. 図中の標高を測定した基準点のデータは平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以前に測定したものをそのまま使用している。
3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通しNoである。
SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構
P：ピット
4. 遺物の略称は以下のとおりである。
A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器
E：須恵器 F：丸瓦 G：平瓦 H：その他の瓦 I：陶器 J：磁器 K：石器・石製品
L：木製品 N：金属製品 P：土製品
5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原 1999）を使用した。
6. 遺物実測図中の網点は黒色処理を示している。
7. 遺物観察表の（ ）がついた数値は図上復元した推定値である。
8. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田 1980）はこれまでの仙台地域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田 a 火山灰（To - a）」と考えられている。降下年代は西暦 915 年と推定されている。

庄子貞雄・山田一郎 1980 「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡 - 昭和 54 年度発掘調査概報』
宮城県多賀城跡調査研究所
仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡 第 1～3 次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第 241 集
小口雅史 2003 「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田 a と白頭山（長白頭）を中心に—」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

第1章 調査計画と実績	1
I 調査体制 II 調査計画 III 調査実績 IV 調査方法	1
第2章 南小泉遺跡の調査	3
第1節 遺跡の概要	3
第2節 第77次調査	3
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第3節 第78次調査	8
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第3章 大野田古墳群の調査	14
第1節 遺跡の概要	14
第2節 第23次調査	14
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第4章 郡山遺跡の調査	18
第5章 総括	19

挿図目次

第1図 南小泉遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第2図 第77次調査区位置図	4
第3図 第77次調査区設定図	4
第4図 第77次調査区平面図・断面図	5
第5図 第77次調査出土遺物	6
第6図 第78次調査区位置図	8
第7図 第78次調査区設定図	9
第8図 第78次調査区平面図・断面図	9
第9図 第78次調査出土遺物	10
第10図 大野田古墳群の位置と周辺の遺跡	14
第11図 第23次調査区位置図	15
第12図 第23次調査区設定図	15
第13図 第23次調査区平面図・断面図	16
第14図 郡山遺跡調査区位置図	18

挿表目次

第1表	平成26・27年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧	2
-----	-------------------------	---

写真図版目次

写真図版1	第77次調査(1)	6
写真図版2	第77次調査(2)	7
写真図版3	第77次調査出土遺物	7
写真図版4	第78次調査	12
写真図版5	第78次調査出土遺物	13
写真図版6	第23次調査	17

第1章 調査計画と実績

第1節 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

平成26年度

【文化財課】 課長 吉岡恭平

【調査調整係】 係長 斎野裕彦 主査 平間亮輔

主任 村上とよ子 鈴木 隆

主事 小泉博明 黒田智章 小林 航

文化財教諭 早坂純一 千葉 悟 千葉靖彦 小山紘明

専門員 佐藤 洋

【整備活用係】 係長 長島栄一

主任 斎藤克巳

主事 及川謙作

文化財教諭 石山智之 伊藤翔太 橋本勇人

専門員 木村浩二

平成27年度

【文化財課】 課長 長島栄一

【調査調整係】 係長 荒井 格 主査 平間亮輔

主任 鈴木 隆

主事 庄子裕美 五十嵐 愛 小林 航

文化財教諭 早坂純一 吉田真太郎 笹原 惇 佐藤慶一

専門員 佐藤 洋

【整備活用係】 係長 斎野裕彦

主任 斎藤克巳

主事 及川謙作

文化財教諭 千葉靖彦 小山紘明

専門員 木村浩二

第2節 調査計画

主に個人住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、「個人住宅補助事業費」として、総額34,182千円（このうち補助金額14,831千円）の予算で27件の調査を計画した。

第3節 調査実績

平成26～27年度にかけて（平成26年10月1日～平成27年12月18日）実施された調査は第1表のとおりで、計32件である。このうち本書に収録したのは平成26年度分2件、平成27年度分1件の計3件である。

第1章 調査計画と実績

平成26年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧（平成26年10月1日～平成27年3月31日） 調査面積 189.5㎡

調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
H26-40	大野田古墳群	太白区大野田字千刈田	75.0	20.0	10月6～7日	小溝、ピット、遺物僅少	H 26 106-203	—
H26-41	南小泉遺跡	若林区遠見塚1丁目	65.5	16.0	10月9～10日	土坑、高坏	H 26 106-205	—
H26-36	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字三所北	85.8	14.1	10月16～17日	土坑、遺物少量	H 26 106-168	—
H26-43	元袋遺跡	太白区大野田字元袋	84.5	16.0	10月20～23日	溝跡、小溝、ピット、遺物僅少	H 26 106-252	—
H26-50	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	67.7	16.0	12月2～4日	竪穴住居跡、井戸、土師器	H 26 106-307	77次
H26-51	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	63.8	16.0	12月4～5日	ピット	H 26 106-308	—
H26-52	南小泉遺跡	若林区遠見塚東	108.8	10.5	12月8日	遺構・遺物なし	H 26 106-302	—
H26-54	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	207.6	15.0	12月15～16日	溝跡、土坑、遺物僅少	H 26 106-317	—
H26-56	南小泉遺跡	若林区遠見塚1丁目	70.0	12.0	1月7～8日	溝跡・土坑、土師器	H 26 106-322	78次
H26-59	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字三所南	50.6	12.0	1月15日	溝跡	H 26 106-329	—
H26-60	大野田官衙遺跡	太白区大野田字竹松	71.0	18.0	1月26日～28日	河川跡	H 26 106-348	—
H26-61	土樋遺跡	青葉区土樋1丁目	71.3	4.0	2月2日	遺構・遺物なし	H 26 106-265	—
H26-62	安久東遺跡	太白区西中田4丁目	48.6	8.0	2月3日	遺構・遺物なし	H 26 106-339	—
H26-63	南小泉遺跡	若林区遠見塚1丁目	70.0	11.9	2月9日	遺構なし・遺物少	H 26 106-365	—

平成27年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧（平成27年4月1日～平成27年12月28日） 調査面積 258.5㎡

調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
H27-9	高田A遺跡	若林区上飯田3丁目	77.8	16.0	6月4～9日	溝跡、土坑、土師器	H27 101-95	—
H27-11	若宮前遺跡	宮城野区岩切字入山	56.0	12.0	6月23日	遺構・遺物なし	H27 101-83	—
H27-12	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	59.6	13.5	7月7～8日	溝跡	H27 101-212	—
H27-15	北日城跡	太白区東郡山2丁目	146.7	27.0	7月27～29日	土坑、ピット	H27 101-182	—
H27-17	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字三所南	81.8	16.0	8月3～4日	SX、遺物なし	H27 101-243	—
H27-19	山口遺跡	太白区富沢3丁目	66.2	12.0	8月6日	遺構・遺物なし	H27 101-247	—
H27-20	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字鴻巣	80.1	16.0	8月10日	遺構・遺物なし	H27 101-262	—
H27-21	上野遺跡	太白区鉤取字新田町	89.3	20.0	8月19日	遺構・遺物なし	H27 101-273	—
H27-23	大野田古墳群	太白区大野田字竹松	61.7	16.0	8月24～25日	小溝	H27 101-244	—
H27-29	北日城跡	太白区郡山4丁目	78.9	16.0	9月29日	遺構・遺物なし	H27 101-250	—
H27-30	下ノ内浦遺跡	太白区長町南4丁目	66.2	15.0	10月2日	遺構・遺物なし	H27 101-344	—
H27-36	小鶴城跡	宮城野区新田3丁目	86.8	16.0	10月26日	溝跡、倒木痕	H27 101-396	—
H27-41	南小泉遺跡	若林区古城3丁目	62.9	12.0	11月4日	遺構・遺物なし	H27 101-405	—
H27-42	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字三所北	89.4	6.0	11月11～12日	遺構・遺物なし	H27 101-379	—
H27-44	六反田遺跡	太白区大野田字五反田	54.7	9.0	11月18日	遺構・遺物なし	H27 101-427	—
H27-45	南小泉遺跡	若林区古城2丁目	61.3	12.0	11月24～25日	土坑、ピット、土師器等	H27 101-422	—
H27-48	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	84.5	12.0	11月30日～12月1日	溝跡、性格不明遺構	H27 101-457	—
H27-52	大野田古墳群	太白区富沢駅周辺区画整理地	66.3	12.0	12月17～18日	25号墳周溝	H27 101-497	23次

表1 平成26・27年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧

第2章 南小泉遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

南小泉遺跡は、仙台市の東郊、JR 仙台駅から東南約 3.5km の地点に位置する。広瀬川と名取川の合流地点より北へ約 3km の場所にあり、「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野の自然堤防上に立地する。標高は、遺跡西側で約 13 m、東側で約 7.5 m あり、緩やかに東側に向かって低くなっている。遺跡の範囲は東西約 2km、南北約 1km に及んでおり、仙台市内でも最大級の広さをもつ遺跡である。

遺跡内には遠見塚古墳を含み、また、西部では若林城跡、北西部では養種園遺跡と接している。周辺には法領塚古墳、蛇塚古墳、猫塚古墳などが分布している。本遺跡は、これまでに 76 回の調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に古墳時代中期（南小泉式ないし引田式期）では、60 軒以上の竪穴住居の検出例があり、仙台平野において有数の集落であったものと考えられる。

第2節 第77次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	南小泉遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01021)
調 査 地 点	仙台市若林区南小泉四丁目 35番、40、35番36の一部
調 査 期 間	平成26年12月2日(火) ～12月4日(木)
調査対象面積	建築面積 67.07㎡
調 査 面 積	16.0㎡
調 査 原 因	個人住宅建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部 文化財課調査調整係
担 当 職 員	文化財教諭 千葉 悟 文化財教諭 早坂純一

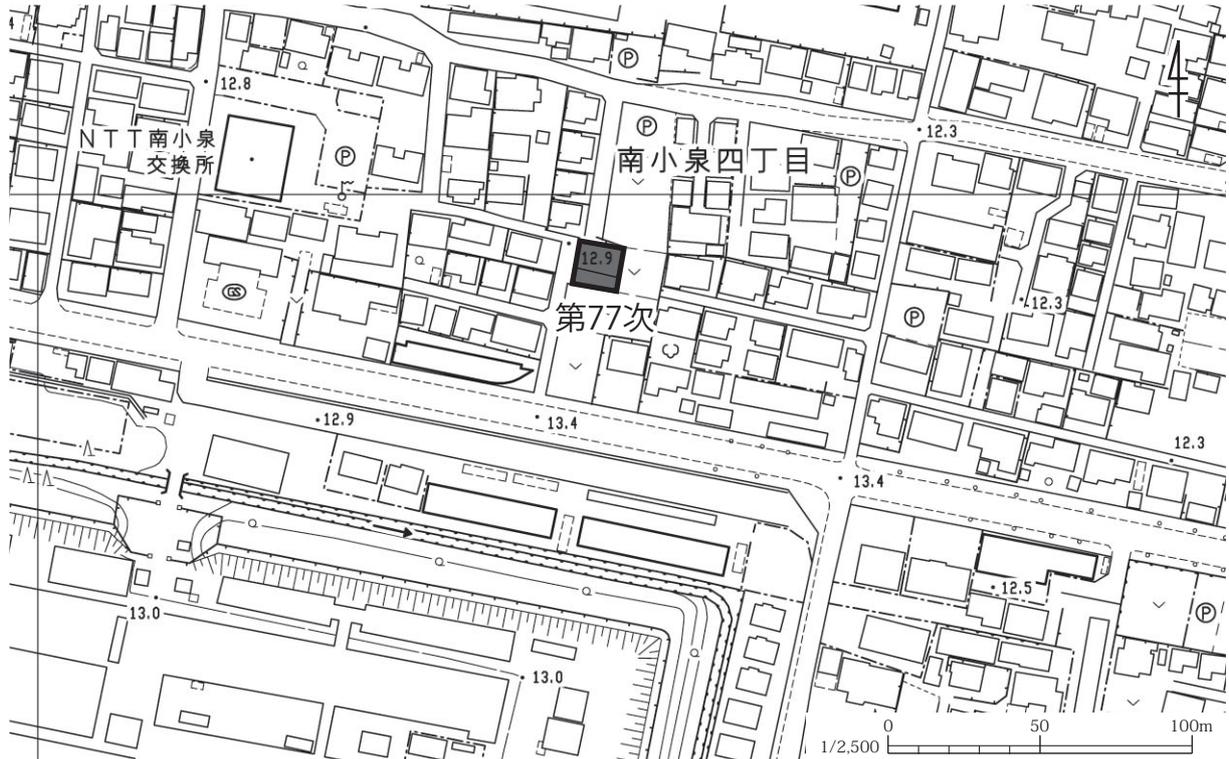


番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～近世
2	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
3	若林城跡	円墳・集落跡・城館跡	自然堤防	古墳～近世
4	養種園遺跡	集落跡・屋敷跡・包含地	自然堤防	縄文・古墳～近世
5	法領塚古墳	円墳	自然堤防	古墳
6	蛇塚古墳	円墳	自然堤防	古墳

第1図 南小泉遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成 26 年 11 月 13 日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成 26 年 11 月 18 日付 H26 教生文第 106 - 307 号で回答)に基づき実施した。平成 26 年 12 月 2 日に着手し、対象地は南小泉遺跡の西部、若林城跡の北側にあたる。建物範囲内に調査区を設定し、重機を用いて、現表土、現宅地の造成に伴う盛土および畑耕作土である基本層Ⅰ層、Ⅱ層を掘削し、基本層Ⅲ層上面で遺構確認を行った。その結果、井戸跡 1 基、性格不明遺構 1 基、ピット 3 基を検出した。また、適宜、平面図および断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査区の埋め戻しを 12 月 4 日に行い、今回の調査を終了した。



第2図 第77次調査区位置図

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は約0.5mであり、その下に基本層を3層確認した。

- I層：褐色（10YR4/4）を呈する砂質シルトである。畑作耕作土である。
- II層：にぶい黄褐色（10YR4/3）を呈するシルトである。炭化物の粒を含む。
- III層：黄褐色（10YR5/6）を呈するシルトである。上面は今回の遺構検出面。

4. 発見遺構と出土遺物

III層上面で井戸跡1基、性格不明遺構1基、ピット3基を確認した。

遺物は井戸跡から中世陶器片、性格不明遺構から土師器坏・高坏・甕が出土した。

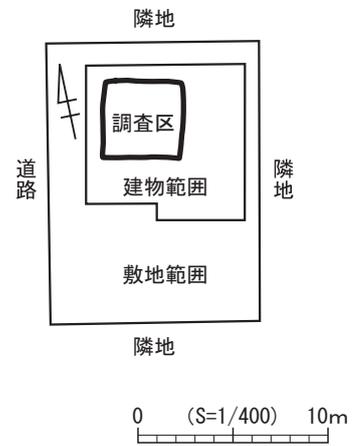
(1) 井戸跡

SE1 井戸跡

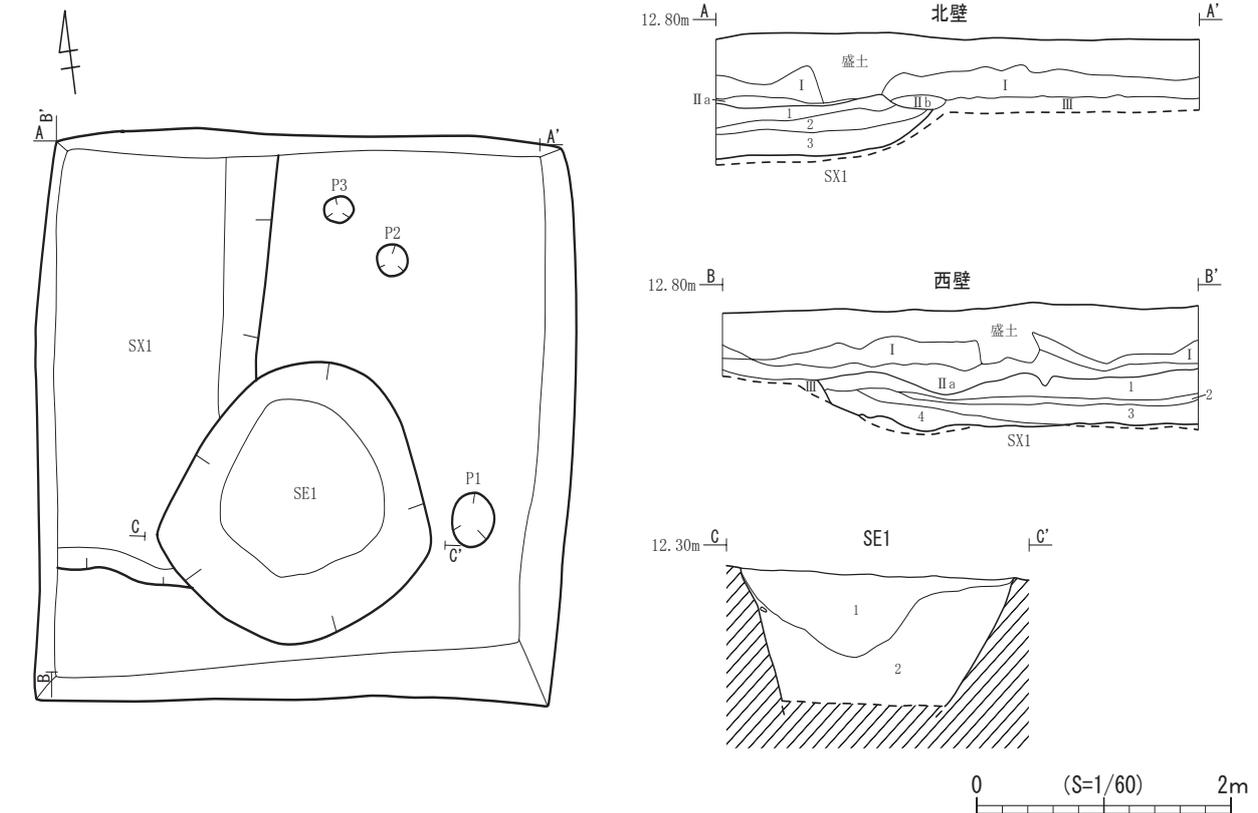
調査区北側に位置する。SX1性格不明遺構より新しい。平面形は、不整円形を呈する。規模は径約2.0mで深さは1.7m以上である。安全性を考慮し底面の検出はできなかったが、その形状から井戸跡であると判断した。堆積土は2層確認した。遺物は在地産の中世陶器甕（第5図5）が出土した。

(2) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構



第3図 第77次調査区設定図



	層位	色調	土質	備考
基本土層	I	10YR4/4 褐色	砂質シルト	畑作耕作土
	II a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロックを含む
	II b	10YR5/6 黄褐色	シルト	炭化物粒を含む
	III	10YR5/6 黄褐色	シルト	地山
SE1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	III層を斑状に含む
	2	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	III層を多量含む
SX1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	2	10YR4/6 褐色	シルト	一部III層を粒状に含む
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物を多量含む
	4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	一部III層を含む

第4図 第77次調査区平面図・断面図

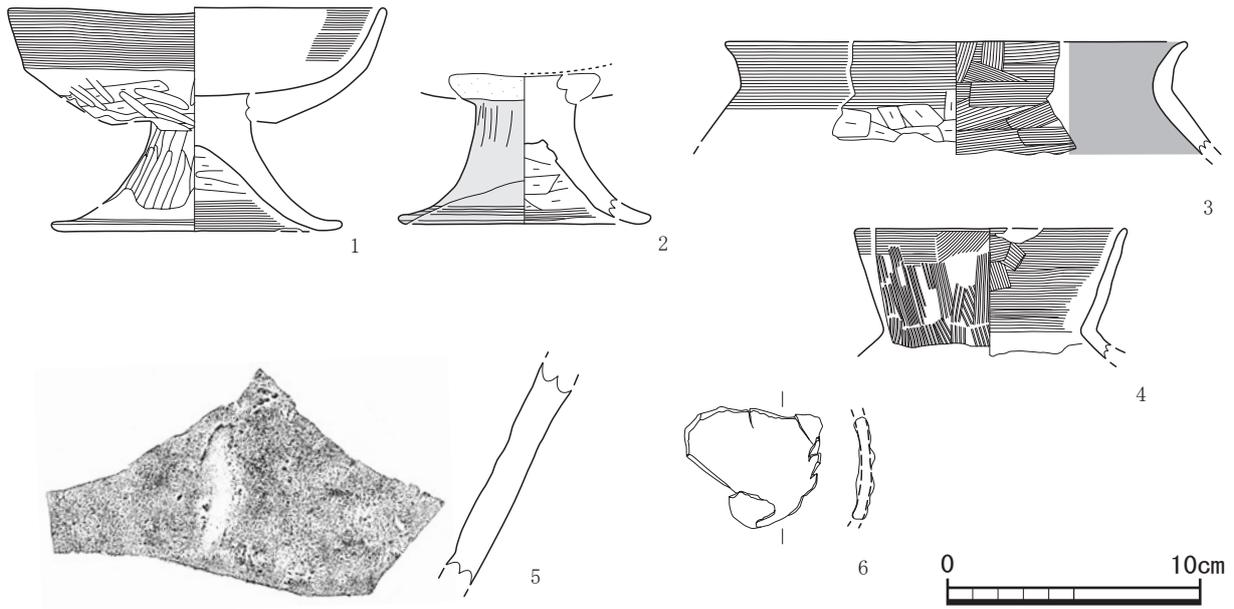
調査区北西部で一部を検出した。検出したのは遺構の南東部分のみである。また掘り方や貼床なども認められなかったことから、住居跡か否か判別できなかったため性格不明遺構とした。検出したのは南北約3m・東西約1.0mで、壁の高さは、西壁で約0.5mである。堆積土は4層を確認した。出土遺物は、土師器4点を図示した。この内、第5図2は丹塗りの認められる高坏脚部である。脚部は短く中空で裾部が広がる。窓はない。第5図3は甕、第5図4は小型の壺である。これらは、図示していない他の遺物の特徴と合わせて概ね古墳時代中期（南小泉式期）に属するものと考えられる。第5図1の高坏については、脚部の特徴は同図2と同様であるが、坏部の体部外面に稜が認められることから、より時代の下る可能性がある。

(3) ピット

3基を確認した。いずれも直径20cm、深さ15cm程度で、断面形は逆台形を呈する。柱穴となるようなものは確認できなかった。P2から非ロクロ土師器の小片が出土している。

5. まとめ

調査地点は南小泉遺跡の西部に位置する。今回の調査では、井戸跡1基、性格不明遺構1基、ピット3基を検出した。遺構の時期については、SX1性格不明遺構が古墳時代中期以降、SE1井戸跡が中世以降であると考えられる。



掲載 番号	写真 図版	登録 番号	出土 遺構	出土 層位	種別	器種	残存	法量 (cm)			調 整		備 考
								器高	口径	底径	外面	内面	
1	3-1	C-1	SI1		非ロクロ土師器	高環	2/3	8.9	(14.9)	(11.5)	坏部:ヨコナデヘラナズリ→ヘラミガキ 胴部:ヘラナズリ→ヘラミガキ	坏部:ヨコナデヘラナデヘラミガキ 胴部:ヘラミガキヨコナデ	
2	3-2	C-2	SI1		非ロクロ土師器	高環	脚部3/4	(6.0)	—	(10.0)	ヘラミガキ 胴部:ヨコナデ	ヘラナズリ 胴部:ヨコナデ	丹塗り
3	3-3	C-3	SI1		非ロクロ土師器	甕	口縁部1/8	(4.5)	(18.2)	—	ヨコナデヘラナズリ	ヘラナデ内黒	胎土に白針含む
4	3-4	C-4	SI1		非ロクロ土師器	小型壺	口縁部破片	(5.2)	(10.8)	—	ヨコナデハケメ	ヘラナデヨコナデ	
5	3-6	I-1	SE1		中世陶器	甕	体部破片	(8.8)	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	在地産 13~14C
6	3-7	N-1	SE1		鉄製品	不明	体部破片	4.7	5.3	0.4			板状湾曲 容器か?
—	3-5	E-1	SI1		須恵器	壺	口縁部破片	—	—	—	波状文凸帯	自然輪	

第5図 第77次調査出土遺物



1. 調査区全景 (東から)



2. 調査区西壁 (東から)

写真図版1 第77次調査(1)



1. SX 1 全景 (北から)



2. SX 1 断面 (南から)

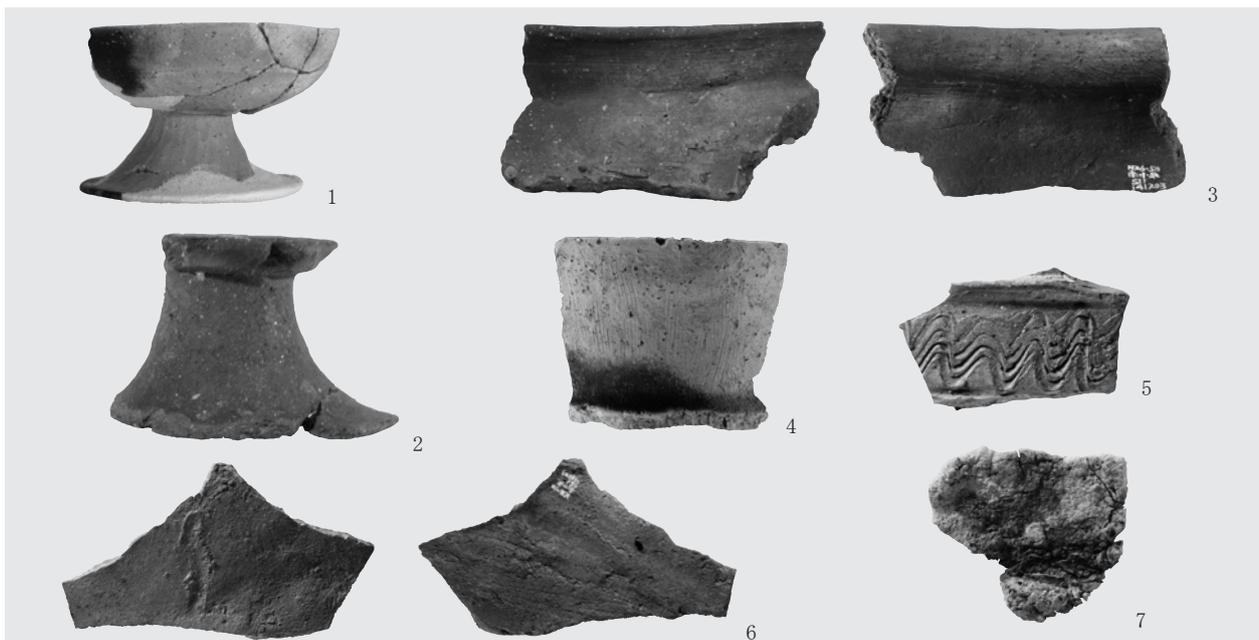


3. SE 1 全景 (北から)



4. SE 1 断面 (北から)

写真図版2 第77次調査(2)

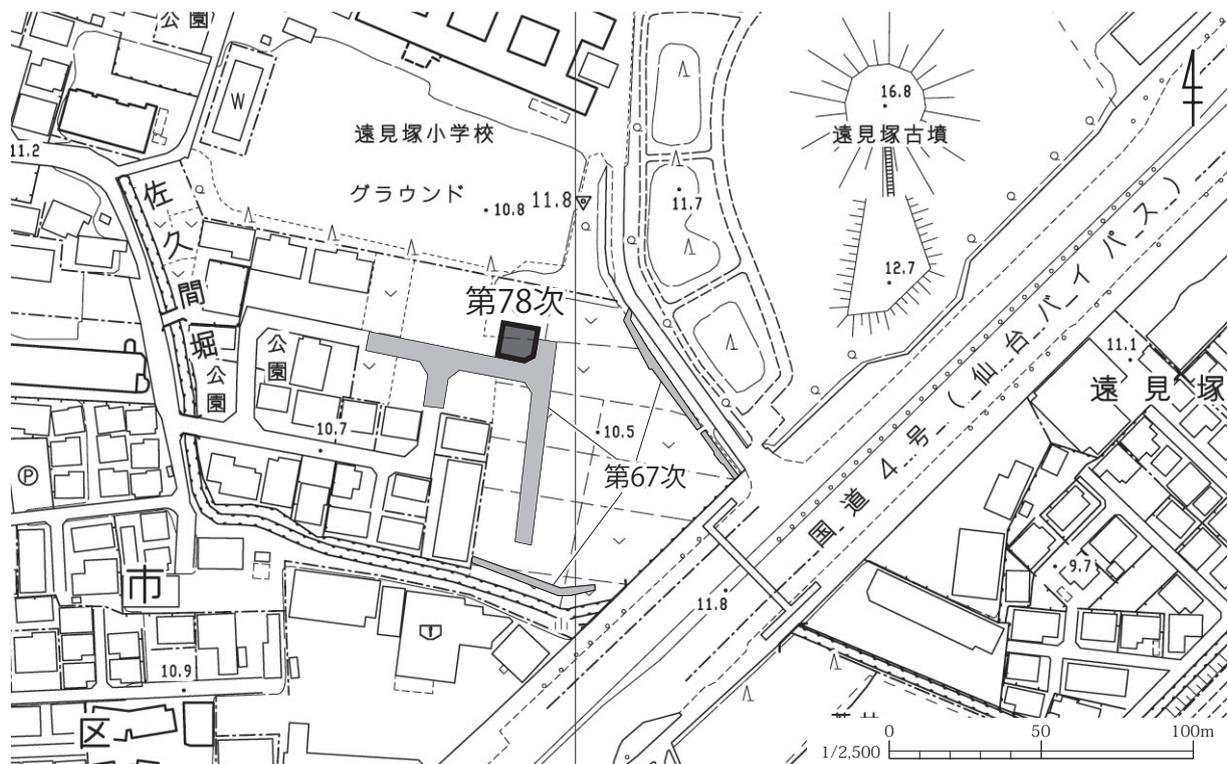


写真図版3 第77次調査出土遺物

第3節 第78次調査

1. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号 01021）
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目 254 - 1 の一部（7号地）
調査期間	平成27年1月7日（水）～1月8日（木）
調査対象面積	建築面積 69.97㎡
調査面積	12.0㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	文化財教諭 千葉 悟 早坂純一



第6図 第78次調査区位置図

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成26年12月1日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成26年12月2日付H26教生文第106 - 322号で回答）に基づき実施した。調査は、平成27年1月7日に着手した。対象地は南小泉遺跡の中央部、遠見塚古墳の南側にあたる。調査は、建物範囲内に調査区を設定し、重機を用いて、碎石層および基本層Ⅰ層を掘削し、基本層Ⅱ層上面で遺構確認を行った。その結果、溝跡2条、ピット1基、土坑2基を確認した。適宜、平面図および断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査区の埋め

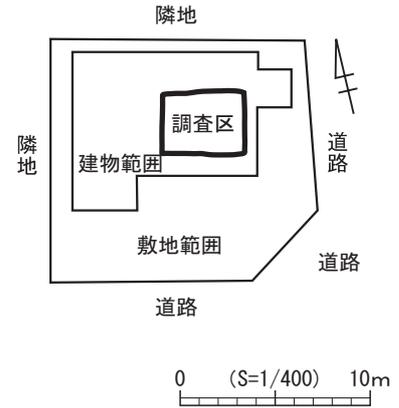
戻しを1月8日に行い、今回の調査を終了した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚（碎石層）は約0.8mであり、その下に基本層を大別2層確認した。

I層：暗褐色（10YR3/4）を呈するシルトである。遺物の小片を含む。

II層：黄褐色（10YR5/8）を呈するシルトである。基盤層。上面は今回の遺構検出面である。



第7図 第78次調査区設定図

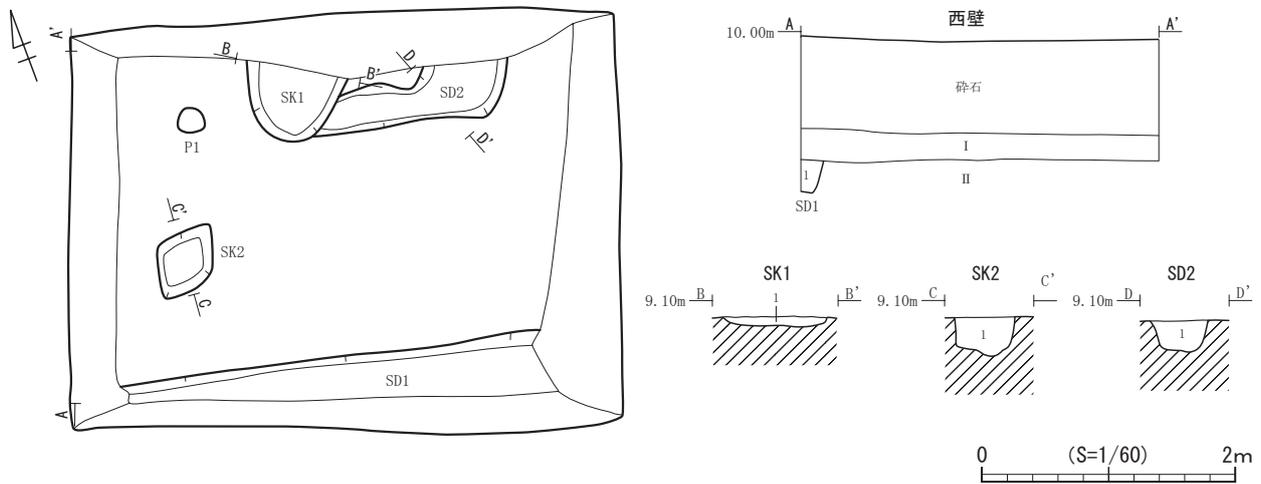
4. 発見遺構と出土遺物

II層上面で溝跡2条、土坑2基、ピット1基を確認した。遺物は、遺構より土師器、弥生土器、石器、石製品などが出土した。特にSD2溝跡より比較的まとまった遺物が出土した。

(1) 溝跡

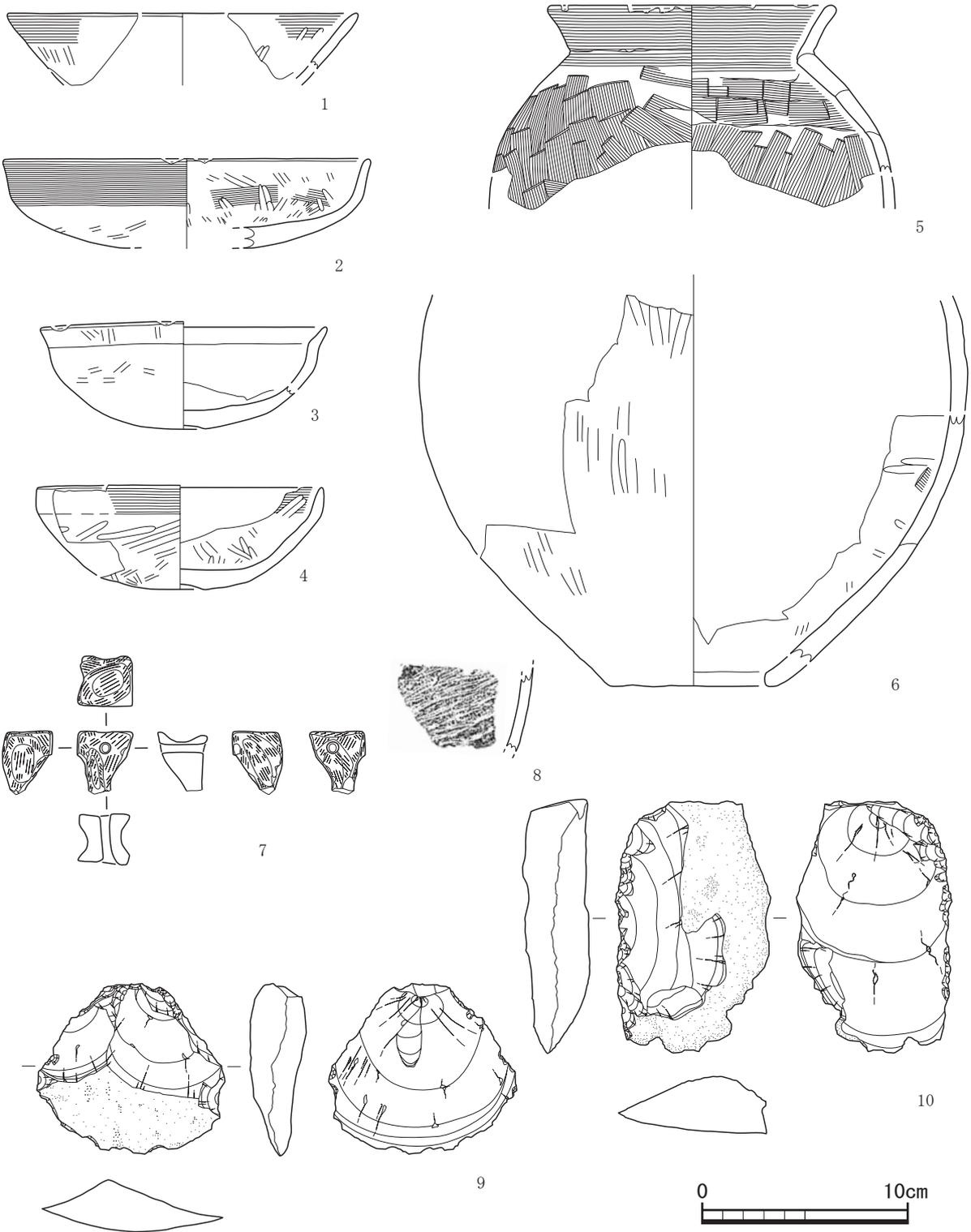
SD1 溝跡

調査区南端で部分的に確認した。東西に伸びる溝跡である。上端幅は、確認範囲で約50cmである。深さは約50cm以上である。堆積土は1層（暗褐色シルト10YR3/3）である。遺物は土師器片の他、陶器（写真図版5-9）が出土した。小片であり詳細は不明であるが、小野相馬産の鉄釉土瓶と考えられ、年代は18世紀代の可能性が考えられる。



	層位	色調	土質	備考
基本土層	I	10YR3/4 暗褐色	シルト	
	II	10YR5/8 黄褐色	シルト	
SK1	1	10YR2/1 黒色	粘土	
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	
SD1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	
SD2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	

第8図 第78次調査区平面図・断面図



掲載 番号	写真 図版	登録 番号	出土 遺構	出土 層位	種別	器種	残存	法量 (cm)			調 整		特徴・備考
								器高	口径	器高	外面	内面	
1	5-1	C-1	SD2		非ロクロ土器	高坏	口~体1/5	(3.5)	(17.0)	—	ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデのちヘラミガキマメツ	
2	5-2	C-2	SD2		非ロクロ土器	坏	1/3	(4.6)	(17.8)	—	ヨコナデヘラナデ	ヘラナデのちヘラミガキ	
3	5-3	C-3	SD2		非ロクロ土器	坏	2/3	5.3	(14.0)	2.0	ヘラミガキマメツ	ヘラナデヘラミガキマメツ	赤褐色粒子 被熱赤変
4	5-4	C-4	SD2		非ロクロ土器	坏	1/2	5.1	(14.0)	2.4	ヨコナデヘラミガキ	ヨコナデヘラミガキマメツ剥落	
5	5-5	C-5	SD2		非ロクロ土器	甕	口~体1/4	(10.0)	(14.0)	—	ヨコナデヘラナデ	口縁部;ヨコナデ体部;ヘラナデ	
6	5-6	C-6	SD2		非ロクロ土器	甕	下半部1/3?	(19.2)	—	8.0	ヘラミガキマメツ	ヘラナデヘラミガキマメツ	
—	5-7	C-7	SD2		非ロクロ土器	高坏	脚部破片	—	—	—	—	横位ヘラケズリ	
—	5-8	C-8	SD2		非ロクロ土器	高坏	脚部破片	—	—	—	ヘラミガキ	—	
8	5-9	B-1			弥生土器	甕	体部破片	(4.1)	—	—	撚糸文	ナデ	
								長さ	幅	厚さ	特徴・備考		
7	5-11	K-1	SD2		石製品	有孔砥石		(3.2)	2.6	2.3	穿孔1あり凝灰岩 砥面5面 溝状の砥ぎ面 重さ12.7g		
9	5-12	K-2	SD2		石器	剥片		4.2	4.6	1.4	流紋岩 打点明瞭 バルブ発達 重さ18.9g		
10	5-13	K-3	SK2		石器	スクレイパー		6.2	3.8	1.6	流紋岩 打点明瞭 バルブ発達 重さ39.7g		
—	5-10	I-1	SD2		陶器	土甕?	注口部破片	—	—	—	小野相馬? 注口部内側孔1ヶ 鉄釉18C?		

第9図 第78次調査出土遺物

SD2 溝跡

調査区北側で確認した。西側でSK1土杭に切られる。東西方向から北へ折れ、調査区外へ延びる。上端幅は30～60cmである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は1層(暗褐色シルト10YR3/3)である。

遺物は、土師器坏(第9図2～4)・高坏(第9図1、写真図版5-7・8)・甕(第9図5)・甗(第9図6)、弥生土器甕(第9図8)、砥石(第9図7)、スクレイパー(第9図10)、剥片(第9図9)が出土した。遺構の時期は、土師器坏や高坏の特徴から、古墳時代中期(南小泉式期)と考えられる。石器の時期は、弥生時代の可能性がある。

(2) 土坑

SK1 土坑

調査区北側で南半部のみを確認した。全体の平面形は不明である。SD2溝跡を切る。東西幅は80cm、深さは20cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土は1層(黒色粘土10YR2/1)である。遺物は土師器片が出土した。

SK2 土坑

調査区西側で検出した。平面形は隅丸長方形で、断面形は逆台形を呈する。規模は50×40cmで、深さは約30cmである。堆積土は1層(暗褐色シルト10YR3/3)である。遺物は土師器片の他、流紋岩製のスクレイパーが出土した。石器の時期は、弥生時代の可能性がある。

(3) ピット

トレンチ北西部で1基検出した。径は20cm、断面形はU字形を呈する。深さは15cmである。堆積土は1層(暗褐色シルト10YR3/3)である。遺物の出土はない。

5. まとめ

調査地点は遺跡の中央部、遠見塚古墳の南側に位置する。調査では、溝跡2条、土坑2基、ピット1基を検出した。隣接する第67次調査では、古墳時代中期(南小泉式期)から後期(住社式期)にかけての竪穴住居跡が21軒検出されているが、今回の調査では竪穴住居跡は検出されなかった。遺構の時期は、SD2溝跡が古墳時代中期とみられる他は不明である。

参考文献

仙台市教育委員会 2014 『南小泉遺跡 第67次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第419集



1. 調査区全景（東から）



2. 西壁断面（東から）



3. SD2 断面（西から）



4. SD1 全景（東から）



5. SK1 全景・断面（南から）



6. SK2 断面（東から）



写真図版5 第78次調査出土遺物

第3章 大野田古墳群の調査

第1節 遺跡の概要

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田に所在する。地下鉄南北線富沢駅の東側に位置し、東西約600m、南北400mの広がりを持つ。遺跡は、名取川下流左岸の標高10～12mの自然堤防上に立地しており、これまでに古墳時代中期から後期にかけての45基の古墳の存在が確認されている。多くの古墳に埴輪が伴っており、東北地方で最も埴輪樹立古墳が多い特異な古墳群であるとされている（藤沢2013）。このほか、木棺墓や堅穴住居跡など、縄文時代および古墳時代から中世にかけての各時期の遺構や遺物が発見されている。

周辺は縄文時代から中世にかけて濃密な遺跡分布を示す。縄文時代では、北東に隣接する大野田遺跡で後期の祭祀に関連した遺構・遺物がみつき、南西の伊古田B遺跡では同じく後期の土偶を含む多量の遺物が出土している。古代には、溝により圍繞された中に並ぶ大型の掘立柱建物跡群が検出された大野田官衙遺跡が造営される。中世では、東側の王ノ壇遺跡で、「奥大道」と推定される幹線道路に面して、区画溝に囲まれた屋敷地や宗教関連遺構が確認されている。

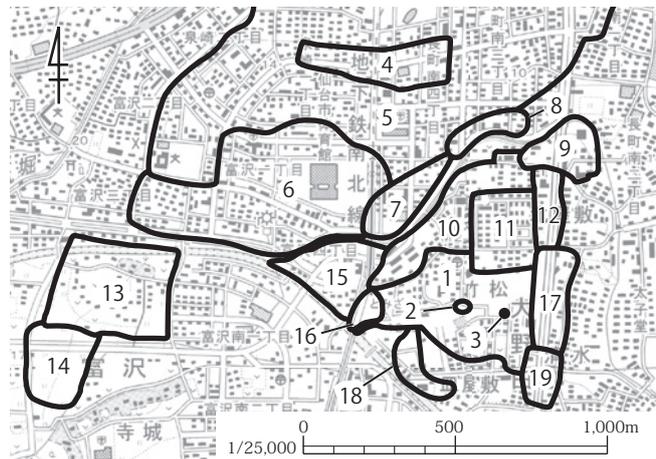
第2節 第23次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田古墳群 (01361)
調査地点	仙台市太白区富沢駅周辺 土地区画整理地内 31B9, 10L
調査期間	平成27年12月17日 ～平成27年12月18日
調査対象面積	建築面積 66.29㎡
調査面積	12㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部 文化財課調査調整係
担当職員	文化財教諭 笹原 惇 文化財教諭 佐藤慶一

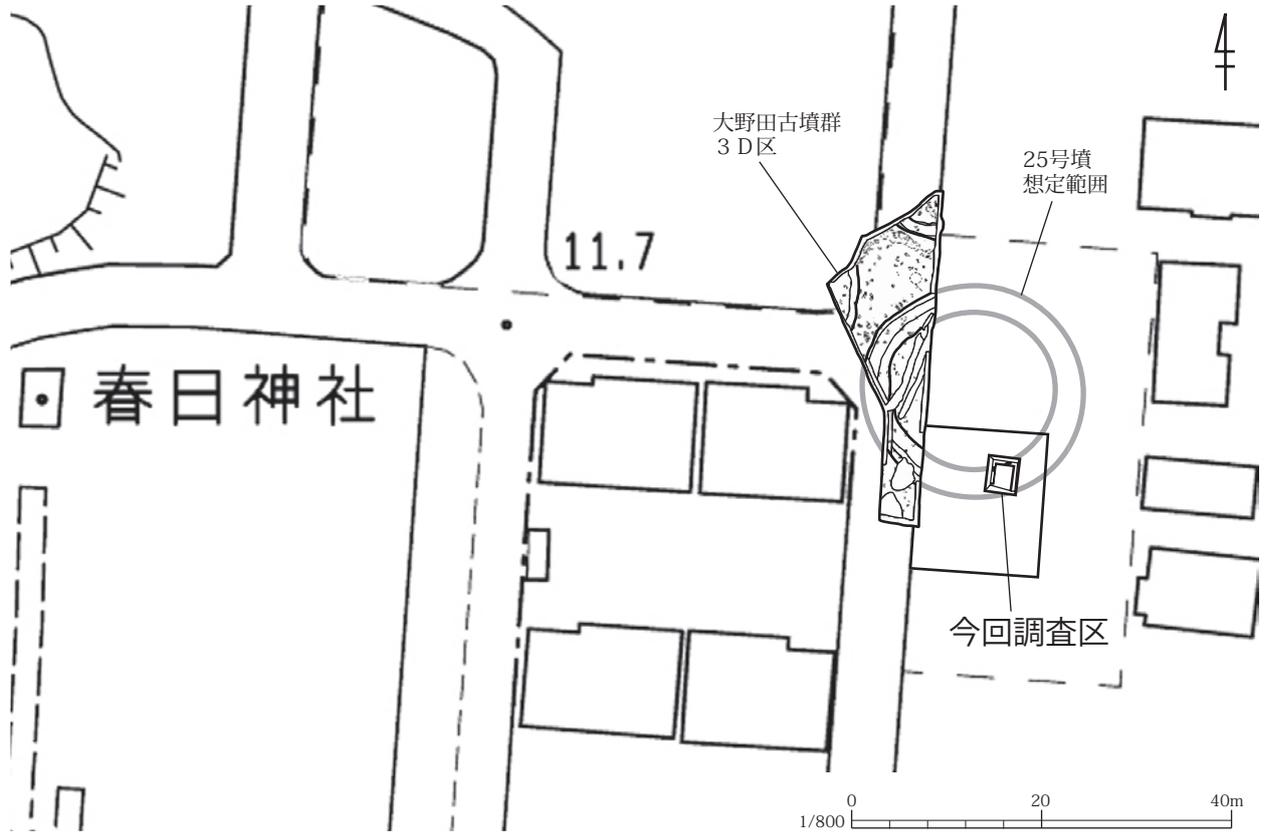
2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成27年11月19日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成27年11月27日付 H27 教生文第101-497号で通知）に基づき、平成27年12月17日、18日に実施した。調査区は、対象地内に設定した3×4mのトレンチ1箇所である。重機により盛土および基本層IV層を除去し、GL-1.3mで遺構検出作業を行ったが、遺構プランが不明瞭であった。そのため、さらに調査区東壁、西壁、北壁でGL-1.6mまで側溝掘削した結果、



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳
2	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳
3	鳥居塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
4	泉崎浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～平安・近世
5	富沢遺跡	包含地・水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世
6	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世
7	下ノ内浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文～中世
8	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳～平安
9	元袋遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	弥生・古代～近世
10	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～古代・近世
11	大野田官衙遺跡	集落跡・官衙跡	自然堤防	縄文～中世
12	大野田遺跡	祭祀・集落跡	自然堤防	縄文～古代
13	富沢館跡	城館跡	自然堤防	中世
14	鍛冶屋敷前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・平安
15	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～中世
16	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古墳～古代
17	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文～中世
18	伊古田B遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	古墳～古代
19	皿屋敷遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	古代～中世

第10図 大野田古墳群の位置と周辺の遺跡



第11図 第23次調査区位置図

調査区の大部分が大野田25号墳の周溝の中に入っていることが確認できた。なお、調査区北壁でピット1基も確認している。平面図(1/40)、断面図(1/20、調査区北壁、西壁の2か所)を作製し、記録写真はデジタルカメラにより撮影した。重機にて複数回の締め固めをしながら埋戻しを行い、すべての調査を終了した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は1.2m程度であり、その下に基本層を2層確認した。なお、今回の調査で確認した基本層は、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査で用いられた基本層序に対応させている。

IV層：10YR3/3 暗褐色粘土質シルト。マンガン粒を多量に含む。酸化鉄をごくわずかに含む。

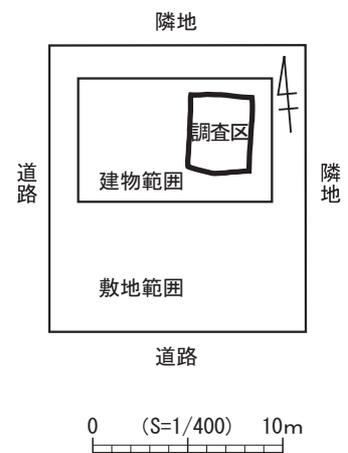
V層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。今回の遺構検出面である。

4. 発見遺構と出土遺物

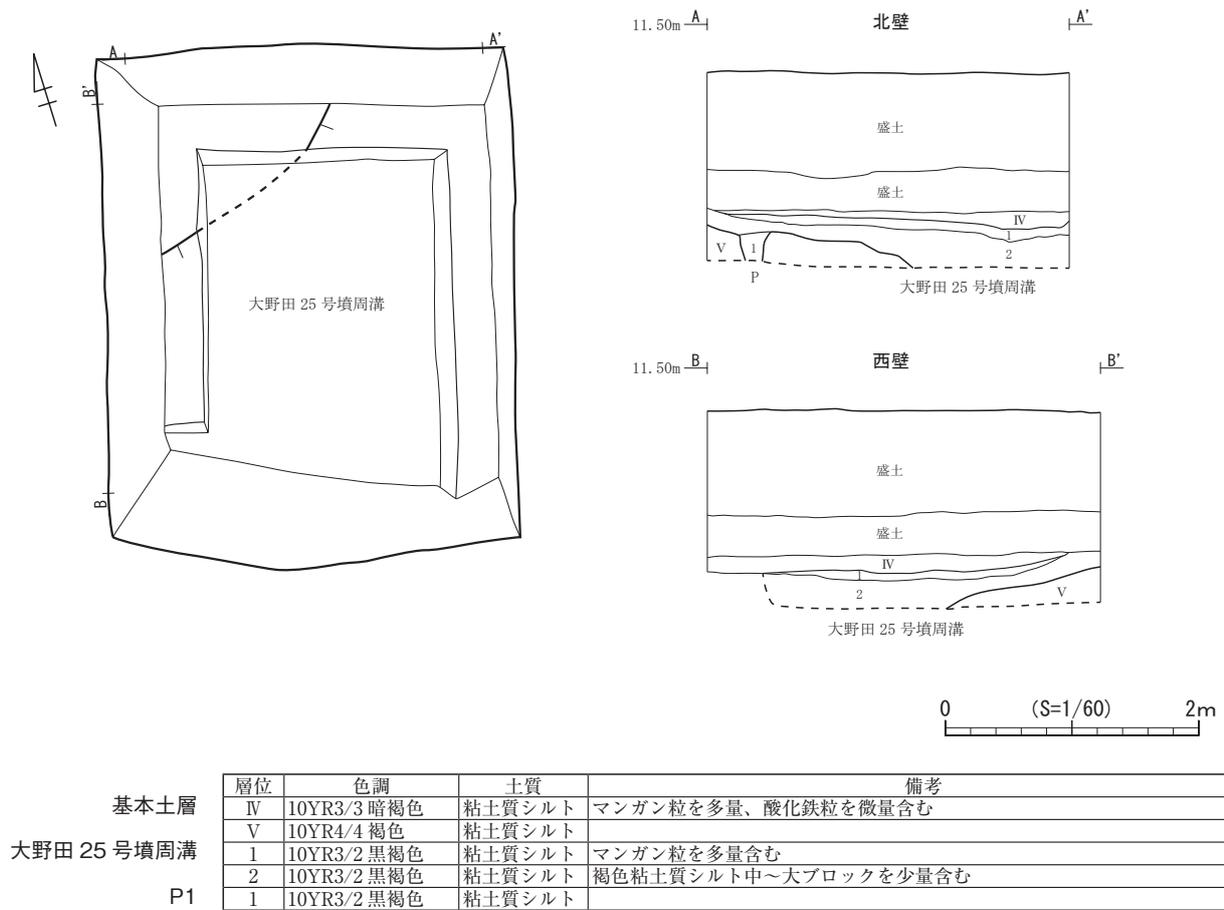
今回の調査では、大野田25号墳の周溝とピット1基を検出した。遺物は、古墳周溝から埴輪片が少量出土した。

(1) 大野田25号墳周溝

側溝底面で南西から北東に延びる周溝の一部を検出した。検出長は約2mである。堆積土は2層確認された。遺物は周溝堆積土から埴輪片が出土したが、小片であるため掲載していない。



第12図 第23次調査区設定図



第13図 第23次調査区平面図・断面図

(2) ピット

調査区北壁で1基を検出した。径0.3m、深さ0.2m以上である。堆積土は10YR3/2黒褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。

5. まとめ

今回の調査では大野田25号墳の周溝とピット1基を検出した。この調査成果に基づき推定される大野田25号墳の直径は、周溝外側で約17mである。遺物は、周溝堆積土から埴輪片がごく少量出土した。古墳の年代は5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

参考文献：藤沢敦 2013「東北の古墳と葬送」『講座東北の歴史第6巻生と死』清文堂



1. 調査区全景（北から）



2. 調査区西壁（東から）



3. 調査区北壁（南から）

第4章 郡山遺跡の調査



遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡 第256次	郡山遺跡南西部	21.3㎡	平成27年3月3日～3月12日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第257次	II期官衙西部	26.0㎡	平成27年03月18日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第258次	II期官衙西部	36.0㎡	平成27年8月24日～9月16日	道路延長工事	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第259次	II期官衙南東部	17.0㎡	平成27年10月21日～10月22日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第260次	郡山遺跡南東部	216.84㎡	平成27年11月24日～12月19日	宅地造成	開発に伴う事前調査(確認調査)
郡山遺跡 第261次	II期官衙南東部	20.0㎡	平成28年1月6日～1月8日	倉庫建築	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第262次	II期官衙北東部	10.75㎡	平成28年1月27日～2月2日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査

第14図 郡山遺跡調査区位置図

第5章 総括

I. 南小泉遺跡第77次調査

調査地点は南小泉遺跡の西部に位置する。今回の調査では、井戸跡1基、性格不明遺構1基、ピット3基を検出した。遺構の年代については、SX1 性格不明遺構が古墳時代中期以降、SE1 井戸跡が中世以降であると考えられる。

II. 南小泉遺跡第78次調査

調査地点は遺跡の中央部、遠見塚古墳の南側に位置する。調査では、溝跡2条、土坑2基、ピット1基を検出した。隣接する第67次調査では、古墳時代中期（南小泉式期）から後期（住社式期）にかけての竪穴住居跡が21軒検出されているが、今回の調査で竪穴住居跡は検出されなかった。遺構の時期は、SD2 構跡が古墳時代中期とみられる他は不明である。

III. 大野田古墳群第23次調査

大野田25号墳の周溝とピット1基を検出した。この調査成果に基づき推定される大野田25号墳の直径は、周溝外側で約17mである。遺物は、周溝堆積土から埴輪片がごく少量出土した。古墳の年代は5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

IV. 郡山遺跡

郡山遺跡においては、今年度5件の個人住宅の建築等に伴う発掘調査を実施した。詳細については、平成26年度の報告書（仙台市文化財調査報告書第438集「郡山遺跡35」）に掲載できなかった2件を含め、仙台市文化財調査報告書第450集「郡山遺跡36」に記載している。

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん							
書名	仙台平野の遺跡群							
副書名	平成 27 年度個人住宅他国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	26							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 449 集							
編著者名	平間亮輔 鈴木隆 小林航 佐藤洋							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒 980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5-12 仙台市役所 上杉分庁舎 10 階 TEL : 022-214-8894							
発行年月日	平成 28 年 03 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	種別	市町村	遺跡番号					
	種別		主な時代		主な遺構		主な遺物	
要約								
南小泉遺跡 (77 次)	仙台市若林区南小泉四丁目	4100	01372	38° 14' 19"	140° 54' 14"	"2014.12.2" 2014.12.4	16㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落跡・屋敷跡	弥生～近世		井戸跡・性格不明遺構		陶器・磁器		
	井戸跡、性格不明遺構、ピット 3 基を検出した。井戸跡から中世陶器が、性格不明遺構から土師器が出土した。							
南小泉遺跡 (78 次)	仙台市若林区遠見塚一丁目	4100	01021	38° 14' 15"	140° 54' 47"	"2015.1.7" 2015.1.8	12㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落跡・屋敷跡	弥生～近世		溝跡・土坑		土師器・石器		
	溝跡 2 条、土坑 2 基、ピット 1 基を検出した。遺物は土師器、石器が出土した。							
大野田古墳群 (23 次)	仙台市太白区富沢駅 周辺土地区画整理地内	4100	01361	38° 12' 49"	140° 52' 35"	"2015.12.17" 2015.12.18	12㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	古墳	古墳		古墳 (25 号墳)		埴輪		
	大野田 25 号墳の周溝の一部とピット 1 基を検出した。遺物は埴輪片がごく少量出土した。							

仙台市文化財調査報告書第449集

仙台平野の遺跡群26

平成27年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

2016年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区上杉1丁目5-12
仙台市役所上杉分庁舎10階
文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区苦竹三丁目1-14
TEL 022 (231) 2245[㊞]
